



半世紀を越えての更なる飛躍

院長
安藤 勝久

共和病院が51年目という新たな半世紀を迎える今年度、新院長として就任することになりました。開院以来50年の歴史を通じて継承されてきました基本精神を受け継ぎつつ、来たるべき新たな時代での更なる飛躍を求めて日々邁進してゆく所存でありますので、よろしくお願い致します。

さて、当院は『優しい医療・楽しい職場』を理念として掲げています。その具現化のための考えをここに述べさせていただきます。

職業性ストレスを考えるモデルのひとつに、ジョブ・デマンド・コントロールモデル(Job demands control model)があります。仕事上要求されるもの(負荷、責任)と、仕事を遂行する上での裁量の余地(自由度、決定権)の2軸の関係からストレスの高さを考えるモデルです。与えられた仕事を効率よくこなしてゆくには、一定の裁量が認められることが必要となります。仕事への要求が高いわりにその自由度が限られている職場では、高ストレスのために職場機能が低下してしまうかもしれません。では、自由度は小さいが、仕事負荷も小さい環境ならどうでしょうか。ストレスも低くなるかもしれませんが、そこで働く人は働き甲斐に欠けた受動的な職場と物足りなさを感じるのではないのでしょうか。

『優しい医療・楽しい職場』

ある程度の課題が責任として課される反面、裁量をもって取り組むことが認められた環境こそが、充実感と楽しさをもって働くことのできる活性化された職場といえるのではないかと考えます。

また、昨今、チーム医療の重要性が盛んに論じられますが、ここでいう“チーム”とはいかなるものでしょうか。それを構成する各員が自らの専門性を自負し、互いに連携を取りながらも自律的に活動することで、全体としての職務遂行を円滑に進める集合体として定義されるものがチームと考えています。特に精神科医療では多くの職種の関与が必要となりますが、混然一体となった団子状態の集団ではかえって見動きがとれなくなってしまふばかりかもしれません。個々の構成員が一定の権限をもつと同時に責任を担い、他と協力を要する部分と独自に遂行すべき部分を見極めることで、互いの専門性を尊重し生かし合うことのできる活力を持ったチームが形成されると考えます。

この二つの取り組みを念頭に据えることで、自ずと生き生きとした楽しい職場が生まれ、その結果として、必然的に優しい医療が生み出されてゆくものと考えます。



日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

TOPICS・EVENT

第6回 共和病院認知症勉強会を終えて

平成21年1月17日、当院C館4階多目的ホールにて、認知症勉強会を開催し、大勢の外来参加者を迎えることができました。

第1部は、①認知症病棟における入・退院支援と課題(ソーシャルワーカー 白木弘菜)、②認知症病棟での対応(C-1病棟課長 鈴木 博志)、③重症認知症患者様の歩行訓練(リハビリテーション課 課長 杉浦正直)、④認知症治療薬の使用状況と注意点(薬剤課 新美 詠彦)を発表しました。



平成15年までは、当院は認知症の診療を積極的に行なっていたとはいえ、典型的な精神科の病院であったがために思春期精神疾患などで精神科医が多忙を極めていたためであることは、赴任してきてすぐにわかりました。しかし世間では精神科が認知症を診ることは当然との認識があり、時代の変化によっていかなる事情があるにせよ、重症の認知症患者を診る病院が増えることは社会的使命になっていました。そのような時代背景の中、平成15年4月から当院では認知症外来を開設し、9月から43床の認知症疾患治療病棟(現：認知症病棟)の運営開始によって、当院は認知症の診断、治療基地として県下はもとより他府県(フランス、北海道～与論島)からの80名を含めた600余名の新規患者様を迎えるまでに成長しました。その結果、大府市における推定アルツハイマー型認知症患者数に対するアリセプトの処方率は、国立長寿医療センターなどと合わせて全国一となりました。しかし、アリセプトの効か

ないアルツハイマー型認知症は3割存在し、よけいに陽性症状が増強してしまう患者が2割存在します。ここ2-3年の間に国内ではBPSD(問題行動)の制御が大切であることがようやく認識されるようになり、さらにピック病や脳血管性認知症には依然として特効薬がありません。

第2部の私の講演では、やはりピック病を中心とした重症認知症の管理で話を締めくりたいと考えました。中でも韓国で開発された米ヌカ脳活性食ANM176の劇的効果については、1時間の講演の中で詳しく発表させていただきました。患者様が改善することが現場の活性化やスタッフのモチベーションに結びつくことは想像に難しくなく、私の講演は常に希望を持って元気の出る内容にしたいと考えてきました。さて、講演後のアンケートを見ると、性別は女性86名 男性7名、年代は①40代40名②50代26名③30代24名④60代以上8名、⑤20代5名、職種は①ケアマネジャー47名②介護職30名が双璧でした。所属は、①介護支援事業所36名②デイサービス8名③介護老人福祉施設8名。感想は①満足67名、②大変満足18名、③普通8名、④不満2名ということで、一生懸命行ないましたが、「大変満足」がもう少し多くなくてはいけないと感じました。私が当院に赴任して6年間で6回の勉強会を行ない、認知症に関わるスタッフが日頃の実態や問題点を外部に発表できたことは大きな成果だったと思います。外部からの発表者を招いたこともありました。私は認知症外来を始めて19年が経過しましたが、当院に来て久しぶりに病棟の担当も行ない、せん妄や栄養障害について精神科医、消化器内科医から大きな知識を得ることも出来ました。今後は、緑区に開設する認知症専門クリニックから共和病院と連携していきたいと思ひます。

(老年科部長 河野 和彦)

働く喜びを上げよう

平成21年2月7日(土)、東海市勤労センターにて、厚生労働省委託事業として『働く精神障害者からのメッセージ発信事業

近畿・東海ブロックセミナー』が開催されました。タイトルは、「働く喜びを上げよう～赤裸々に語ろう!!～」です。NPO法人 全国精神障害者就労支援事業所連合会が主催となり、運営には知多地域の支援者が実行委員として集まりました。

平成17年の障害者雇用促進法の改正により平成18年4月から精神障がい者も雇用率の算定対象となったことや、同年10月の障害者自立支援法の施行により、確実に精神障がい者に対する関心が支援機関や企業等において高まりをみせています。このような追い風のなか、第1回となる近畿・東海ブロックセミナーの開催は、たいへん意義のある事となりました。

当日は、遠方からも多数参加され、約200名もの来場者がありました。当事者、ご家族、支援者などの参加者のうち、圧倒的に当事者の参加が多いという、これまでにないセミナーとなりました。当日のプログラムは、午前は講演、午後からはグループ討論と勉強会という盛りだくさんの内容で行なわれました。グループ討論では立場や職種をこえ、一つになって問題をのり越えようという一体感のようなものを感じることができました。



また今回は、前日当日合わせて、約40名もの当事者の方にアルバイトとして参加していただきました。当院のデイケアからも、4名の方が参加されました。私自身は、実行委員として参加し、当事者の方と一緒に作り上げるという体験ができたこと、とても嬉しく思いました。

今回のセミナー全体を通して、精神障がい者の就労支援において、当事者を中心に支援者のネットワークがいかに重要かということを目の当たりにしました。このたび実行委員として参加させていただき、得ることのできたすばらしいネットワークを今後も大切にして、就労支援にかかわらず、さまざまな支援において、生かしていきたいと思ひます。

(医療福祉課 小池 敦子)

検査課



こんにちは!いつも元気な検査課4人組です。

検査課は、検査科・放射線科の2つの科を担当しています。検査科では生理検査(心電図・肺機能・脳波検査など)・生化学検査(血液・尿・便など)に分かれます。放射線科では、胸部・腹部・骨などの単純X線撮影と、腎臓・胆管などの造影X線撮影、胃・大腸などのバリウム(造影剤)を使用した消化管撮影、X線を用いて体の横断像を撮影するCTなどを主に業務を行なっています。検査データなども正確かつ迅速さをモットーに日々研鑽し、患者様と楽しく会話しながら、笑顔で接するように心がけて日々業務に臨んでいます。



検査課では、4月に機器を一新します。①X線一般撮影(CR: Fuji Computed Radiography) ②X線TV透視撮影(DR: Digital Radiography) ③X線CT(※) MDCT: Multi-Detector-row CT 16列)

これらの導入により、患者様の待ち時間や検査時間が短縮されます。時代の変貌により、ますます検査内容が複雑になるなかで、診療側に的確な診断の裏付けとなるよう情報を提供するべく、検査課スタッフ一同頑張っていきます。

検査課 小林 博美

(※) MDCT: Multi-Detector-row について

一度に複数の断層画像を撮影することが可能になり、身体への負担が少なくてすみます。呼吸を止めにくい乳児や高齢者、重症患者様の画像も鮮明に撮影でき、詳細な立体画像の表現が可能になりました。

あした天気にな〜れ パート XII

平成21年3月14日(土)、大府市勤労文化会館にて『あした天気にな〜れパートXII〜第12回精神障害者の社会復帰・福祉を考える集い』が行なわれました。当日は、あいにくの空模様で始まった一日でしたが、主催者側の熱い思いが通じたのか午後からは晴れ間が見られ、約340名の来場者がありました。



当日のプログラムは2部構成で行われ、第一部は鳥取県から当事者の自助グループ「終の会」代表として活躍されている古川奈都子氏を招いて、「当事者とその仲間のパートナーシップ」というテーマで講演がありました。講演は、自助グループのメンバーとして古川氏の地域生活を支えている精神科医の植田俊幸氏も共演し、対談形式で進められました。古川氏の話の中で、私たちは当事者が中心となって会を運営しており、資金繰り、予算編成、活動計画等、大事なことはみんな当事者で考えているという話がありました。自身が会を立ち上げる時に多くの人たちから反対されたという経験談も踏まえ、「援助をする人たちは、私たちがどれだけできるのか、まずは見守ってほしい。」という発言が印象に残りました。植田氏からも、「最初は当事者だけで本当にやっていけるのか不安だったが、実際に始めると近所のレストランよりおいしい料理を作る人もいて、精神障がい者が才能を発揮できる環境を用意することが大切だと思った。」という話がありました。日頃、支援する側にいる私には、患者様やご家族の方との関わりについて改めて考えさせられる内容でした。

第二部は、講師の古川氏、植田氏と、地域で暮らす当事者、福祉関係者を交えて、「十人十色自分らしい生活を作ろう」というテーマでシンポジウムがありました。精神障がい者の自立のかたち、当事者を抱える家族の悩み、保健・医療・福祉の連携など幅広いテーマで様々な意見が交わされました。進行役を務めた日本福祉大学准教授の青木氏から「部分的に社会に依存した形であっても、それは自立である。」という話がありましたが、障がい者を支援する上で、その考え方はとても大切であると思いました。会場フロアからも活発に質問の手が上がり、発言の内容から当事者の方が地域社会の中で懸命に生きている姿が伝わり、参加された方々の問題意識の高さがうかがえました。

「あした天気にな〜れ」は精神障がい者の自立と社会参加のあり方を考える場として毎年開かれており、今年で12回目の開催でした。障がい者が暮らしやすい社会づくりを目指してこの会は続けられていますが、偏見の眼差しは未だに根強いものがあり、その道程は容易なものではありません。だからこそ、こういった会を通して私たちは当事者の話に耳を傾け、支援する上でその意見を取り入れていくことが大切であると感じました。

医療福祉課 高木 剛志

編集後記



草花たちが気持ちよさそうに花開き起きだしてきました。春ですね。春は入学・進級・入職など始まりの季節です。

皆様の中にも何か始められるご予約の方はみえますか? 私自身、今年の春から息子とウォーキングの計画を立てております。きっかけは、2月に行なわれた学校のマラソン大会でした。私の長男は喘息発作が出ながらもマラソンに参加しました。しかし、走っている途中で転んでしまい、その痛みと喘息の

苦しさで結局完走できませんでした。完走できなかったのは学校の中でただ一人だったことに非常に悔しがっていました。

来年、リベンジの為に体力づくりにと歩くことを決めました。といってもまずは、早起きの習慣からの始まりですが…。来年のマラソン大会には良い結果がでるよう応援して下さいね。そして、皆様にご報告できる日を楽しみにしております。

(M・A)

地域とのつながり (ボランティア・職場体験)

当院では患者様と共に、様々な行事を開催しています。お花見、盆踊り大会、てんてん祭り、クリスマス会など、入院患者様に季節を感じていただく良い機会となっています。

そこには地域のボランティアさんの参加もあり、行事に活気を与えてくれます。その他にも、年間を通して市内中学校からの職場体験学習、中学・高校夏休みボランティアスクールの希望者を受け入れています。病棟での介護、作業療法活動、リハビリテーション、デイケアなどへの参加を通して、仕事の尊さ、人と関わる大切さを学んでいただけます。

学生の方へ事前に行なうオリエンテーションでは、当院の地域における連携、感染対策、個人情報保護についての説明を大切に考えています。

患者様にとっては、自分の孫のように親しみを持っていただいたり、元気をもらっ



たり、お互いに自然と笑顔がこぼれています。学生の方からも、「看護・介護職の大切さ・厳しさがわかった」「病院には様々な職種の人が働いていることがわかった」「精神科のイメージが変わった(良くなった)」などの感想をいただき、うれしく思います。

参加される学生の中には当院職員のお子さんも多く、これは職員自身が自分の仕事に誇りを持っている事が家族に伝わっていることの表れであり、お子さんも親の職場を見て、仕事についての会話が増え理解が深まる、とても微笑ましい事だと思えます。学生の方の中には、将来看護師を希望されている方もみえます。その気持ちに応えられるよう、私たちは楽しい職場、やりがいのある職場づくりを大切に、常に患者様にとって何が大切かを考え行動しながら、日々励みたいと思います。

ボランティア支援委員会 丸山 浩史

当院では、病院行事への参加、入院患者様のお話し相手、敷地内の花壇・草花のガーデニング等を共に楽しんでいただけるボランティアさんを募集しています。お気軽にご連絡ください。 TEL:0562-46-2222(担当/丸山、山口)

お知らせ

- 第11回 共和病院 地域医療フォーラム ●お盆休み
 - 日程/6月20日(土)
 - 場所/大府市勤労文化会館
 - 8月13日(木)~8月16日(日)
 - お盆休みにつき外来診療を休診させていただきます。
 - 盆踊り大会
 - 日程/7月30日(木)
 - 場所/共和病院 駐車場
- ※詳細は、追って院内掲示等でご案内いたします。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

- 私たちが目指す『優しい医療』とは!
- 患者様に安心と満足を提供する医療
 - 良質且つ効率的な医療の提供
 - 患者様へのサービスの充実
- 私たちが目指す『楽しい職場』とは!
- 毎日の出勤が楽しくなる職場
 - 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
 - 職員の満足が患者様へ反映される職場

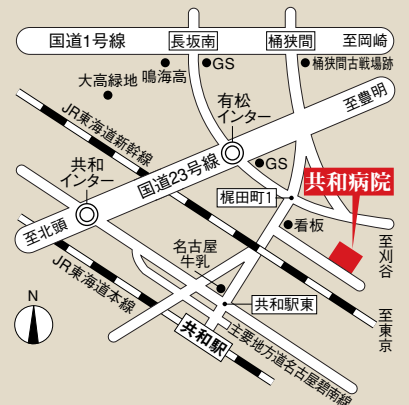
基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報は保護されます。
- 5.あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

院長 安藤 勝久



特定医療法人 共和会 **共和病院**
愛知県大府市梶田町2-123
TEL.0562-46-2222(代)
URL <http://www.kyowa.or.jp/>